



《会計・税務の知識》

ベンチャー企業経営の基本 ～資金繰り～

「勘定合って銭足らず」や「儲け＝キャッシュではない」などと言われる資金繰りですが、資金が回らなければ会社はストップしてしまいます。そこで今回はベンチャー企業にとって重要課題の1つである資金繰りについて、基本的なところから考えてみたいと思います。

1. 勘定合って銭足らず

まずは次の2つの事例を見てみましょう。当初資金500万円の会社が次の取引を行いました。

ケース1		
4月売上	1,000万円	入金6月末
4月仕入	500万円	支払5月末
4月经費	200万円	支払4月末
ケース2		
4月売上	1,000万円	入金4月末
4月仕入	500万円	支払5月末
4月经費	200万円	支払4月末

どちらの事例も、4月末時点での損益計算書は、次のようになります。

売上	1,000万円
仕入	△500万円
経費	△200万円
利益	300万円

ただし、資金の動きは次のように異なってきます。

ケース1	資金の動き	資金残高
当初資金		500万円
4/30経費支払	△200万円	300万円
5/31仕入支払	△500万円	△200万円
6/30売上入金	1,000万円	800万円
ケース2	資金の動き	資金残高
当初資金		500万円
4/30経費支払	△200万円	300万円
4/30売上入金	1,000万円	1,300万円
5/31仕入支払	△500万円	800万円

ケース1では、5月時点で資金が不足してしまいます。収益はプラスでも、資金が赤字となってしまうようでは、会社は立ち行かなくなります。

上記は非常に単純化した事例ですが、売上入金と仕入・経費支払のタイミングの違いで、たとえ収益が黒字であったとしても資金が回らなくなっていました。利益と資金収支は一致しないのです。

2. 資金繰りに影響する要因と対策

利益と資金収支が一致なくなる要因、つまり資金繰りに影響する要因は他に何があるでしょうか。

先ほどの事例では、入金と支払のタイミングのズレでした。その他影響すると考えられる要因と、資金繰りをプラスにする対策をカッコ書きで例示してみますと、

- ① 売掛金の回収（早くする）
- ② 買掛金の支払（遅くする）
- ③ 在庫の増減（減らす）
- ④ 固定資産の購入（リース契約とする）
- ⑤ 借入金の返済（長期の返済とする）

などなど、他にも様々な要因があります。こういった要因が絡み合って、一企業の資金繰りを形成しています。

3. 資金繰り表を作成しよう

自社の資金繰りを把握するには、資金繰り表を作成する必要があります。試算表・決算書と言われる貸借対照表や損益計算書では資金繰りを把握するには限界があります。資金繰り表は、キャッシュの増減を表に落としこむもので、例えば次のようなものです。

		4月	5月	6月
前月繰越				
収入	現金売上			
	売掛金回収			
	受取手形入金			
	受取手形割引			
	借入金			
その他の収入合計				
支出	現金仕入			
	買掛金支払			
	支払手形決済			
	販管費支払			
	支払利息			
借入金返済 その他の支出合計				
翌月繰越				

4. 終わりに

資金繰り表で、まずは資金繰りの予測をたて、実績を管理します。資金繰りの悪化原因の究明や改善計画の立案のための資料として、資金繰り表を経営に活かしてみたいでしょうか。

資金繰りにお悩みの方は、弊所担当者までお気軽にご相談下さい。

(担当：豊山 忠明)